

Increasingly, / our food is coming from further and further away, / and we're becoming more and more dependent on the fuel [  $\wedge$  it takes to get them to us ].

S<sub>1</sub>                      V<sub>1</sub>  
S<sub>2</sub>                      V<sub>2</sub>                      C<sub>2</sub>                      ↑                      関係代名詞 (which [that])

### ☑ 内容Check!

問 次の各文が正しければ ( ) に○を、誤っていれば×を記入しなさい。

1. We can buy many different kinds of fruit and vegetable even when they are out of season. ( )
2. The cost of transportation has raised the price of our food so much that no one can afford to buy it. ( )
3. By transporting a variety of food, we also transport polluted air from other countries. ( )

### ❖ 覚えておきたい表現

#### ■ as ... 「…する時に」

ℓ. 6 : Within days of being picked off the vines, the fruit is in your trolley, tasting of spring **as** the leaves are falling outside. 「その果物は、蔓から摘み取られて数日以内に、外で木の葉が舞い落ちている時に、春の風味で、あなたのショッピングカートに入っている。」

• as ... 「…する時に」: whenと同様に、時を表す接続詞。as ... は「…する時に」の他に「…につれて」(比例)と訳す場合(例文参照)や、「…なので」というように理由を表す場合もある。

Ex. **As** time went by, the memories began to fade. 「日が経つにつれて、記憶が薄らいできた。」

• , tasting of ~ 「～の味をさせながら」: 付帯状況を表す現在分詞で、「…しながら; …して」の意味。

#### ■ 現在分詞の形容詞用法

ℓ. 8 : It's all great until you start contemplating the vast mileage **sitting** in your shopping basket. 「自分の買い物かごにかかっている膨大な総走行マイル数をじっくりと考え始めるまでは、すべては素晴らしい。」

• sitting ... 「買い物かごにかかっている(膨大な総走行マイル数)」: 現在分詞の形容詞用法で、前のmileageを修飾している。sittingの前にwhich isを補って考えるとわかりやすい。

#### ■ It takes ~ to do 「…するには～が必要だ」

ℓ. 14 : we're becoming more and more dependent on the fuel **it takes to get** them to us 「それらを私たちのもとへ届けるのにかかる燃料に、ますます依存するようになっているのである」

• It takes ~ to do : 「…するには～が必要だ」と訳す。itは形式主語で、to以下が真の主語。本文中ではtakesの目的語はthe fuelであり、fuelとitの間に関係代名詞which [that]が省略されている。

• more and more ~ : 「ますます～」。

### 整理しよう! \*段落要旨・構造\*

#### ① 現代のスーパーマーケットの便利さ

- どんな季節にも、欲しい野菜や果物が手に入る。
- 世界のどこにいても、自分の欲しいものが手に入る。

#### ② 便利さの裏に隠れている環境負荷

- 自分の欲しいものが運ばれる過程で、膨大な温室効果ガスが排出されている。
- 私たちはますます食物輸送のための燃料に頼るようになってきている。

### 背景知識

#### ● フードマイレージの考え方

食物の輸送に伴うエネルギーの大きさに着目する考え方は、日本では「フードマイレージ」として紹介されている。「フードマイレージ」とは具体的には、「フードマイレージ(単位はt・km) = 輸入相手国別の食料輸入量(t) × 輸出国から日本までの輸送距離(km)」という算式で表される。これを用いて2000年度の日本国民1人当たりのフードマイレージを算出すると、4000t・kmにのぼる。これはアメリカ合衆国の500t・kmの8倍にもなり、世界一であるとされる。この算式によって得られた値から、輸送にかかる石油などの化石燃料の量を算出すると、CO<sub>2</sub>によって与えられる環境への負荷の大きさも測ることが可能となる。「フードマイレージ」の基となったものは、イギリスの消費者運動家ティム・ラングが提唱した「フード・マイル」で、これは、食料の生産地から食卓までの移動距離を極力減らすため、消費地の周辺地域で生産された食料を消費しようという考え方である。これを日本に導入するにあたり、一般的に普及することを狙って、航空会社の使っていた「マイレージ」の語を借りたとされる。NGO 企業「大地を守る会」で運営している「フードマイレージ・キャンペーン」ウェブサイト(<http://www.food-mileage.com>)では、食品のサンプリングリストやフードマイレージ電卓などを公開している。フードマイレージ電卓では食品ごとのフードマイレージが簡単に計算できる。ちなみにこの電卓では二酸化炭素100g = 1pocoという独自の単位を導入している。

**深めたい人に**: エリック・ミルストーン、ティム・ラング著、大賀圭治監訳、中山里美、高田直也訳『食料の世界地図』(丸善、2005年)